

4 課

7月24日

休みのコスト



安息日午後 7月18日

暗唱聖句

神よ、わたしのために清い心をつくり、わたしのうちに新しい、正しい霊を与えてください。(詩篇 51 : 10、口語訳)

神よ、わたしの内に清い心を創造し／新しく確かな霊を授けてください。(詩編 51 : 12、新共同訳)

今週の聖句

サムエル記下 11 : 1~27、サムエル記下 12 : 1~23、創世記 3 : 1~8、1ヨハネ 1 : 9

今週のテーマ

多くの人々は、ほんの小さな平安と静けさを見いだすのにも絶望しているように見えます。彼らは、そのためなら喜んでお金を出すことでしょう。大都市の多くには、(ネットカフェと呼ばれるような) 時間で賃貸するインターネット使い放題の部屋があります。その利用規約は厳しく、絶対静粛、使用契約者以外立ち入り禁止というものです。それでも人々は、そこで静かに過ごし、考えごとをしたり、仮眠を取ったりするために、喜んでお金を払うのです。空港には仮眠用のカプセル型の椅子があり、周囲の音を遮断するためのイヤホンやヘッドホンも人気の商品です。さらには職場で素早く休憩できるよう、頭部や上半身を覆うための布製のフードや、折り畳み式のつい立てまで、買えば手に入る時代なのです。

真の休みにもコスト(代価)がかかります。自己啓発セミナーの主催者たちは、(自分のスケジュールも含めて) 運命は自分で決定できるものであり、平安も自分の選択と計画次第で手に入るものだと言います。しかし正直なところ、私たちは心に真の休みを見いだせないでいることに気がついているのです。4世紀に書かれたアウグスティヌスの有名な著書『告白』の第1巻には、その神の恵みについて次のように記されています。「神は人を神御自身のために造られた。ゆえに神の中に休みを見いだすまでは、我々の心に休みはないのだ」。

私たちは今週、神の御心になかった人物の生涯を概観し、どのようにして神にある休息の本当の価値を見いだしたかを学びます。

ダビデ王は落ち着かない足取りで、宮殿の屋上を行ったり来たりしていました。彼は、ヨルダン川の対岸で、彼の軍隊と共に戦っているはずでした。神の民を率いてアンモン人を打ち破り、遂に彼の王国に平和をもたらさずでした。

問1 ダビデがいるはずの場所にいなかったことは、誘惑の機会になりました。サムエル記下 11：1～5 の物語を読んでください。何が起り、そしてダビデはどんな大きな罪を犯しましたか。

ダビデは宮殿の屋上から、水浴びをしている「大層美しい女」に目を留めます。その晩、彼の罪の衝動が良心を打ち負かし、彼は忠心の将校の妻、バト・シェバと寝ます。すべての古代の王たちのように、ダビデは絶対の権力を手にしていました。王である彼は、すべての民を統治する国家の法に従わなくても良いのでした。しかしながら、この物語に続く彼の家族の悲劇は私たちに、王といえども、神の律法の上には立てないという事実を思い起こさせるのです。

実際に、律法は安全を確保し、保護するものとしてあるのですから、王であってもその外に踏み出すなら、恐ろしい結果に直面するのです。ダビデは、神の律法に背くやいなや、すぐに彼の人生のすべての面で、その結果を感じ始めます。ダビデは、その情熱に身を任せたふるまいはだれにも気づかれていないと考えましたが、夫が戦地にいたはずのバト・シェバは妊娠したのです。

問2 サムエル記下 11：6～27 を読んでください。ダビデはどのようにして彼の罪を隠そうとしましたか。

ウリヤを妻バト・シェバのいる家に帰そうとするダビデの周到な企ても失敗します。ウリヤはその輝かしい評判通りの人であり、ダビデの巧妙な助言に次のように応じます。「神の箱も、イスラエルもユダも仮小屋に宿り、わたしの主人ヨアブも主君の家臣たちも野営していますのに、わたしだけが家に帰って飲み食いしたり、妻と床を共にしたりできるでしょうか」(サム下11：11)。結局、困惑したダビデは手を変え、彼の罪を隠すために「リモートコントロール」暗殺を企てます。

神にこれほど多くを与えられたダビデが、これほどの悪に手を染めるほどに身を落とすとは、信じがたいことです。この物語から、すべての人に対するどのような警告を読み取る必要がありますか。

ダビデの人生の暗黒期にも、一つの良い知らせがあります。神は預言者を送られます。ナタンはダビデも周知の存在でした。以前にもナタンは、神殿建築の計画の件でダビデに助言したことがありました(サム下7章)。しかし今、この預言者は異なる使命を帯びて、彼の王に向かい合っていました。

問3 ナタンはなぜ直接ダビデを名指しで非難し、恥じ入らせることをしなかったのでしょうか(サム下12:1~14)。

ナタンは語るべきことを知っていました。そして彼は、それをダビデがよく理解できる譬えで語ります。彼はかつて羊飼いであったダビデに馴染みのある譬えを語ります。彼はダビデの内に養われていた、正義と正直さの優れた感覚を知っていました。こうして、ナタンはある意味、ダビデを罫にかけ、彼はその罫にみごとにはまったのでした。

ダビデが知らずに自分自身に死の宣告を下したとき、ナタンは彼に告げます。「その男はあなただ」(サム下12:7)。そう告げるには、さまざまな語調が考えられるでしょう。大声で叫ぶのか、人差し指を顔の前に突きつけて糾弾するのか、あるいは配慮と思いやりを持って諭すのか。ナタンの言葉には、憐れみのにじむ厳しさがあつたはずです。その瞬間、ダビデは、主の御心の外に踏み出してしまった神の息子、娘に対して神がお感じになる痛みを感じたことでしょう。ダビデの心に何かひらめきました。彼の心を何か切り裂いたのでした。

問4 ダビデはなぜ、「わたしはバト・シェバに対して罪を犯しました」ではなく、「わたしは主に罪を犯しました」と答えたのでしょうか(サム下12:13、詩編51:4(口語訳6節)参照)。

心が不安になるような罪は、創造主であり、贖い主である神に対する公然たる侮辱であることをダビデは知っていました。罪は自分自身を傷つけ、他者に影響を与え、家族や教会の恥となります。しかし究極的には、私たちは神を傷つけ、ゴルゴタの天を指す荒削りの梁に新たな釘を打ち付けているのです。

「預言者の譴責は、ダビデの心を感動させた。良心は目覚めた。彼の罪がどんなに憎むべきものであるかが明らかにされた。彼は、神の前に悔いせずおれた。彼は、くちびるをふるわせて言った。『わたしは主に罪をおかしました』(サムエル記下12:13)。他人に対して犯した悪事は、すべて害を受けた者から神へとさかのぼるのである。ダビデは、ウリヤとバテシバの両方に恐ろしい罪を犯したことを痛感した。しかし、神に対する罪は、それより無限に大きかったのである」(『希望への光』376ページ、『人類のあけほの』下巻420ページ)。

ダビデが自らに裁きを下した後（サム下12：5、6）、ナタンはダビデに彼の罪の重大さを突きつけました。ダビデの心は張り裂け、自分の罪を告白します。ナタンはすぐに、「その主があなたの罪を取り除かれる」（サム下12：13）と言ってダビデに保証を与え、彼は赦されます。神の赦しに待ち時間はありません。誠実であることを立証するまで、赦しが先延ばしにされることはないのです。

しかしながら、ナタンはすでにサムエル記下12：10～12に、ダビデの罪の結果を予言していました。それは、生まれてくる子どもの死を告げるものでした。

問5 神がダビデの罪を取り除かれたとは、何を意味するのでしょうか。神はただ罪の足跡を消されたのでしょうか。だれもみな、罪を簡単に忘れられるのでしょうか。サムエル記下12：10～23を読んで考えてみてください。

バト・シェバに生まれた赤ちゃんが死に、彼の家庭は混乱していきます。彼の将来はどうなるのでしょうか。ダビデもまた、こうして彼の周囲の世界が崩壊するのを見て、神の赦しの意味を模索していたことでしょうか。ウリヤや新しく生まれた赤ちゃんという罪のない者たちにまで及んだ彼の罪の結果にもかかわらず、それでもなおダビデは、神の恵みが彼の罪を覆い、これらすべての罪の結果がいつの日か消し去られることを理解し始めていました。彼は、自分の罪が引き起こした苦しみの中にあっても、神の恵みの中に平安を見いだすのでした。

問6 ダビデが真に必要なとしていたものは何でしょうか。彼は何を慕い求めていたのでしょうか。詩編51：3～8（口語訳1～6節）を読んでください。

詩編51編でダビデは、彼の心の内を公に表し、罪を告白しています。ダビデの憐れみを求める叫びは、神の変わることのない愛とその大いなる憐れみに訴えます。ダビデは新たにつくり変えられることを慕い求めます。

私たちがイエスにある休みの価値を考えると、まず外からの助けが必要であることを知る必要があります。救い主を必要とする罪人である私たちは、数々の罪を知りながらも、洗い、清め、新たにすることがおできになる唯一のお方に向かって叫ぶのです。そのとき、私たちは勇気を得ます。ここには、姦淫、隠ぺい、殺人、そのほか少なくとも、十戒のうち五つの戒めを破った者がいます。それでもなお、彼は助けを求め、神の赦しの約束を公言するのです。

ダビデがしたことを神がお赦しになられたのなら、あなたにはどんな希望があるのでしょうか。

問7 ダビデは言い訳やごまかしをせずに罪を告白した後、神に嘆願しました。彼は神に何を求めましたか（詩編 51：9～14〔口語訳 7～12 節〕）。

ダビデは、聖所を訪れたことのあるイスラエル人ならだれもが知っている、ヒソブの枝で清めるという行為を引用しています。モーセの律法の中に描かれている儀式としての清めの行為について触れるとき（レビ14：4）、彼は、将来、世の罪を取り除くためにおいでになる「犠牲」の力を認識していました。

ダビデはまた、「喜び」と「楽しみ」さえも求めています〔詩篇51：8、口語訳〕。彼の罪の重大さを考えると、この願いは少し大胆すぎないでしょうか。

この願いはおそらく、次のように言いかえる必要があるでしょう。「わたしは赦されていると言ってください。そうすれば、わたしは再び聖所に入り、主を礼拝する人々の喜びと楽しみの歌を聞くことができるでしょう」

問8 アダムとエバが罪を犯したとき、彼らは神の御前から隠れました（創3：8）。ダビデの願いは、罪を犯した後にもかかわらず、なぜこれほど違うのでしょうか（詩編 51：13、14〔口語訳 11、12 節〕）。

ダビデは、神の御前に生きているという自覚を失いたくありませんでした。彼は、聖霊なしには無力であることを自覚しています。簡単にバト・シェバとの罪に陥ったように、再び自分が罪を犯す可能性があることを知っているのです。彼の自信は粉々に砕かれます。

将来の勝利が自分自身から来るのではなく、完全に神により頼むときに、神から来ることを、ダビデは理解しています。

クリスチャン人生のすべての勝利は、私たちによりません。すべてイエスによるのです。イエスの臨在を慕い求め、イエスの霊を切望し、イエスの救いの喜びを求めるのです。私たちは新生と回復を必要とし、神の再創造によるイエスにある安息を必要としています。創造による安息は、赦しと大きくは違いません。「神よ、わたしの内に清い心を創造し、新しく確かな霊を授けてください」（詩編51：12〔口語訳10節〕）とのダビデの願いには、創造という言葉が用いられています。旧約聖書では、神のみが「創造する」(bara) ことがおできになり、私たちは再創造されて初めて、休むことができます。

あなたが、罪の意識から解放された喜びと楽しみを経験していないとすれば、何があなたを妨げているのでしょうか。もしそれが罪悪感であれば、ダビデの物語からあなたは何を学ぶことができるでしょうか。

過ちを犯し、赦しを経験した後に、その出来事を忘れようとするのは、最も自然なことではないでしょうか。過ちの記憶は心の痛みとなるからです。

問9 自分のつらい経験を通して、ダビデは何を望みますか（詩編51：15～21〔口語訳13～19節〕）。

食器や花瓶を落として割ってしまったとき、私たちはため息をつき、役に立たなくなったそのかけらを捨てます。日本には割れた陶器のかけらを継ぎ合わせることに特化した、「金継ぎ」と呼ばれる伝統技術があります。これは、水金や水銀といった貴重な金属を接着剤として用いて割れた器を修復し、さらに美しく価値あるものに再生させる技法です。

神は、私たちの背信を赦すたびに、私たちを以前とは異なるものに再創造してください。神の尊い赦しという接着剤は、私たちの割れたかけらを継ぎ合わせ、その継ぎ目こそが神の恵みへと目を向けさせるのです。そうして私たちは、神の福音を拡声するスピーカーとなるのです。「恵みの御業をこの舌は喜び歌います」（詩編51：16〔口語訳14節〕）。割れた器である私たちは、自分で修復しようとはしませんし、たとえゆっくりであっても自動的に修復されることもないのです。私たちの打ち砕かれた霊、打ち砕かれ悔いる心は、神への賛美となり、私たちを取り巻く世を照らす光となります。私たちの赦された経験が、赦しを探し求めている人々を惹きつけるのです。

問10 詩編51編と1ヨハネ1：9には、どのようなつながりがありますか。

1ヨハネ1：9は詩編51編を短くまとめています。ダビデが、「打ち砕かれ悔いる心を／神……は悔られ」（詩編51：19〔口語訳17節〕）ないことを知っていたように、ヨハネは、「自分の罪を公に言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、罪を赦し、あらゆる不義からわたしたちをきよめてくださることを保証しています（1ヨハ1：9）。私たちはみ言葉通りに神を信じるのです。

さてダビデは、家族に対する行為と悪い模範による恐ろしいダメージを修復することができませんでした。彼は、自分の下した決断と行動の結果に苦しみました。それでもなお、ダビデは赦されていることを知っていました。彼は、いつの日か、神の真の小羊がおいでになり、身代わりとして立ってくださるとの信仰により頼む必要を知っていました。

1ヨハネ1：9の約束を、どのようにあなたの生活に当てはめることができるでしょうか。この約束があなたのものであることを、どのように実感できるでしょうか。

「ダビデは、心から深く悔い改めた。彼は、自分の罪の弁解をしようとはしなかった。彼は、自分に下る刑罰からのがれようと望まずに、神に祈りを捧げた……。彼は、自分の心の汚れを悟った。彼は、自分の罪を嫌悪した。彼が祈ったのは、ただ赦されることだけではなくて、心が清められることであった……。悔い改める罪人に対する神の約束の中に、赦されて受け入れられる証拠を彼は見たのである。

『……神の受け入れられるいけにえは砕けた魂です。神よ、あなたは砕けた悔いた心を／かろしめられません』（詩篇51：16、17）。

ダビデは倒れたのであるが、主は彼を起こされた。

……ダビデは、謙遜に自分の罪を告白したが、サウルは、譴責を軽んじて、心を頑固にして、悔い改めなかったのである。

ダビデの生涯の中のこの出来事は……、人類の苦闘と誘惑、そして、神に対する悔い改め……に関して与えられた最も感銘深い例の1つである。これは、各時代を通じて……、罪に負け、今にも絶望に陥ろうとした神の子供たちの多くは、ダビデが……、真心からの悔い改めと告白によって、神に受け入れられたことを思い出したのである。そして、彼らもまた勇気づけられて、悔い改め、神の戒めの道を歩もうと、ふたたび試みたのである。

……謙遜に罪を告白して悔い改める者は、誰でもダビデのように希望をもつことができるのである……。

主は、真に悔い改める魂を1人でもお捨てにならない」（『希望への光』378、379ページ、『人類のあけぼの』下巻429、430ページ）。

話し合いのための質問

- ① 私たちに内在する罪深さを知り、赦しの必要を理解することと、赦された全宇宙の王の息子、娘として生きることとの間には、どのようなバランスが必要でしょうか。
- ② なぜあらゆる罪は、究極的に神に対する罪なのでしょう。神に対する罪とは何を意味するのでしょうか。
- ③ 私たちは、信者でない人に、ウリヤやダビデの長子やバト・シェバのような罪のない人々が苦しむことについて、どのように説明すればよいでしょうか。このような状況における神の愛と正義を、どのように説明しますか。
- ④ なぜ聖書は丸々2章を、ダビデとバト・シェバのあさましい物語のために割いているのでしょうか。この物語の詳細を記録する目的は何なのでしょう。
- ⑤ 詩編51：13、14（口語訳11、12節）は、罪は私たちを神から引き離す（退ける）ものであると表現しています。あなたの人生で、実際にそのような経験をしたことがありますか。あなたはそのとき、どのように感じましたか。恵みの約束は、なぜ唯一そのような感情を癒やすものなのでしょう。